



1994.8.14 馬籠・藤村記念館 山下正子

「憲法を守れ」が新世紀の課題

村島 昭男

回想・一九五二年のこと(三)

小畑 哲雄

良心の灯をいつまでも(二)

服部 真吾

会員からの通信

合本販売状況

「花やしき」山宣資料室通信(一)

小田切 明徳

総会のお知らせ

編集後記

「憲法を守れ」が新世纪の課題

村島 昭男

松本清張は小説「象徴の設計」で、一八七八年（明治十一年）、西南戦争の論功行賞を要求して近衛兵が引き起した、竹橋事件に衝撃を受けた山県有朋がいち早く軍人訓戒を達示し国歌統合の象徴を「絶対主義天皇制」に置く姿を描いている。

兵や国民が国家の意志や命令に無条件に従う体制の頂点に「天皇」を据え、これに絶対服従する体制の確立こそ、明治という新体制の国家に不可欠と考えたのである。

かくて兵制、法制、学制、官僚制、道徳制とあらゆる分野にわたり、絶対主義的天皇制に基づく支配網の整備とその実施がすすめられて行く。八二年軍人勅諭、八年帝国大学令、八九年大日本帝国憲法、九〇年教育勅語。

これらが一人山県の手になると、は言えないが、徳川幕藩体制下、三百余の藩に分れて、それぞれが、

一国一城を成していたのを明治新政府の下に統合する、その統合の中心に絶対主義的天皇制を置く着

眼は、ドイツの國權主義に範を取つたとは言え、冷徹な山県の権力意志に負うところが大きいのではないだろうか。

かくて天皇の名を冠した国家権力は、国民に絶対服従を強い、日清、日露の侵略戦争に駆り立て、韓国併合にみられる領土拡大、帝國主義的野望の最前線に使役されることになる。

しかし磐石を極めたかにみえる山県設計の権力支配も、随所にほころびを見せはじめる。ヨーロッパから流れ込む近代民主主義と自由の思想は、中江兆民を始めとする自由民権思想として、社会主義の色合いを帯びつつ紹介され、一九〇四年、堺枯川訳の「共産党宣言」を平民新聞が訳載する。これ

歴史の変化をとどめる事は出来ないのだ。こうした動きに危機を感じた山県は、悪あがきの最後、遂に「大逆事件」をでっち上げ、社会主義の芽を双葉の内に摘み取ろうとする挙に出る。

この明治末年の時代閉鎖の状況、即ち「思想的鎖国」の状況は、大正デモクラシーで、少しうるむが、一九二五年、治安維持法制定によって、一切の自由の息の根が止められ、以後二十年間、戦争につぐ戦争で、国土も国民生活も極度に疲弊し破壊され、生きているのが、不思議なくらいの暗黒の時代が続く。

一九五一年それは信じられない光景だった。前年、朝鮮戦争が起り、マッカーサー元帥の「憲法は自衛権を否定せず」を布石に、再軍備の動きが強められ、米軍の武器弾薬の製造で、朝鮮戦争に全面協力させていたのだ。

旧陸軍枚方工廠で製造された砲弾が引込み線で津田駅に運ばれ、むき出しで搬送されるのを見た私は、新しい憲法で学んだこととは全く違う光景に、満身の怒りを覚えた。

私はいま、自己の思想形成の初めに、この新しい憲法のはなしがあつたことを知ることが出来る。

その頃、四条畷の高校で文芸雑誌の編集に携っていた私は、毎号

(3) 2001年5月15日

燎原

にわたって、憲法擁護の論陣をはつた。「平和憲法を守れ」「再軍備反対」「平和は理想論か」「戦争否定の憲法九条」「絶対平和論」……等。

信じられないのはもう一つ、こうも易々と戦争の痛みを忘れる大人们だった。戦争はもうこりごりと思つたはずなのに、再軍備の口車に乗せられ、白昼堂々と運ばれる砲弾に無関心でいられる姿だつた。ちょうどその頃読んでいた魯迅の「阿Q」は、日本にもいるのだと知らされる想いがしたのを思い出す。

憲法蹂躪と反動の流れに抗うよう、社会主義の思想に傾いて行つた私は、社会科学の初步的文献の幾つかを読んだが、より多く影響されたのは、小林多喜二を始めとするプロレタリア文学であつた。「蟹工船」の読書感に「丸ビルのソファにふんどり返つてゐる重役共のドテツ腹に、銃弾をぶち込んでやりたい様な怒りを覚えた」と記している。

その暗黒と矛盾の社会からやつと抜け出したというのに、世の中はまたあの時代に戻ろうとしている。何故か。

そんなとき読んだのが、河上肇の「貧乏物語」だった。世の中の貧乏を憂い、その実態を人道主義者の目で克明に描き出した河上は、その原因が金持ちのぜいたくにあると考え、譲り合い、分かち与える事の大切さを諄諄と説く。わかり易く、なるほどと納得させられる文章に、真からそうだと共鳴しその信奉は今日まで続いている。

しかし現実社会の貧困や失業はかえつて増すばかりで、研究の結果それが資本主義という制度にあるとの結論に到達した河上肇は、人道主義的社会主義から、敢然と思い出す。

憲法蹂躪と反動の流れに抗うよう、社会主義の思想に傾いて行つた私は、社会科学の初步的文献の幾つかを読んだが、より多く影響されたのは、小林多喜二を始めとするプロレタリア文学であつた。「蟹工船」の読書感に「丸ビルのソファにふんどり返つてゐる重役共のドテツ腹に、銃弾をぶち込んでやりたい様な怒りを覚えた」と記している。

河上肇はこの理論を実践に移そうとして捕らえられ、変革せんとした資本主義という社会と制度は、絶対主義的天皇制下、帝国憲法を始めとする法と制度に守られ、一九四五年まで国民の上に君臨した。この痛恨の歴史に立つて生まれにさらされ、時には無視され、間違つて解釈され、傷つけられたが、はつきりしているのは五十五年間、遂に戦争を許さなかつたことだ。

忠実であれば、軍備費が国民生活を圧迫する事もないのだ。

私は、今日、日本が落ち入つてた様に、その他の条文や精神に忠実であつたならば、河上肇が憂いだ貧困や失業を追放出来たのではないかと思う。

日本国憲法は、国の主人公は国民であり、その国民の人権、生活を守ることを柱としている。二十五条の生存権は貧乏や生活苦の追放につながるし、二七条の勤労の権利が守られれば失業はないのだ。

国民生活優先の原理に従えば、公共事業中心による財政破産もなし、不況や倒産を防ぐ事は出来るのだ。憲法がを目指す福祉国家に

それが憲法という信号を無視したから起きている事故や混乱なのに、この信号を取り壊そうとういう暴挙をあえてやろうとしている。21世紀のいま、この憲法を守ることが最重要の課題であり、そのことが、明治以来の人類懸案の問題の解決につながると思う。

(むらしま・あきお)

千葉県松戸市在住

回想・一九五一年のこと(三)

小畑 哲雄

警察での調べはこれで終り、私は、身柄を検察庁に送られ、京都拘置所に収容されることになつた。みなそれぞれの房に引き取られて行つた。だがなぜか、私一人だけ素っ裸にされ、お尻のホクロの位

置まで書き留められて、私の「身分帳」が作られた。他の被疑者は、

「お宅のことは新聞などで知つて

います。しばらく不自由でしょ
が、預かってくれと言われば、
預からぬといけないのです。な
にあつたら申し出て下さい」

それからもまだ待たされている
と看守が言つた。そのころの拘置
所は満員で、独房に三人入つてい
るというのも珍しくなかつた。そ
こで、私一人を収容するために、
独房を明けているというのだ。こ
のような調子で、外界から遮断さ
れてはいたが、そのころには天皇
を迎えて京大で、なにがあつたら
しい、ということだけは伝わつて
來ていた。

数日後、「搜検」といつて、房

内の検査に入つて來た看守が出て
行きぎわに、こう言つた。

「同学会、解散になりましたで。
学生の処分もありました

「わしもか?」
「あ、よう知らんけど、処分さ

れた学生のうち、一人は獄中にあ
り、もう一人は、逃走中だと新聞
に出てました」

それだけ知らせてくれると、彼
は知らん顔で去つて行つた。拘置
所内でも、廊下のスピーカーでN
HKのラジオを聞かせてくれてい

たが、ニュースで犯罪や事件に関
するものが放送されそうになると、
ラジオが切られるのだ。その切れ
る間際での断片から、どうやら、
天皇の来学によつて「事件」と呼
ばれるほどのことが起つたらしい、

そして、学長とともに、同学会の
青木委員長も国会に参考人として
呼ばれたらしい、ということまで
はわかっていた。委員長代行の武
田君は、私といつしょに逮捕状が
出て、姿をくらましている、とい
うこともわかつていて。しかし、
十二日にいつたいどのようなこと
が起つたのか、まったくわからな
かった。

数日後、「検事調べのとき、質問をした。
「同学会、解散になつたらしい
な」

「なんで、知つてゐんや?」
「風の便りや、わしも処分にな
つたらしいが、どういう処分
や?」

検事は、すこし口ごもつたが、
やがて言つた。

「無期停学や」
「そうか、ありがとう。そやけ
ど、わし、黙秘するで」

検事拘留が延長されたので、結

三日目に、私は「処分保留」のま
ま釈放された。

下宿に帰つてみると、私の机の
上に、父からの手紙がおかれてい
た。開けてみると輔導部長名の父
宛の文書が入つていた。

「君について、気の毒だつた
と思つています」

「そんなことはどうでもいい、
何をしたか、何が学生の本分
に反することか、説明してく
ださい」

「君については、気の毒だつた
ので、左記の通り懲戒されまし
たのでお知らせいたします。

そしてその後には、家庭におい
ても監督をしつかりやつてくれと
いうような、注文がつけられてい
た。

翌日、大学に行つた。同学会の
事務室は閉鎖されていた。

私が輔導部の部屋に入ると、部
長と課長が、驚いたような表情を
見せた。

私は、父宛の例の文書を取り出
してさつそくたずねた。

「ここには、十一月十二日、ぼく
に、学生の本分に反する行動があ
つたから懲戒処分された、とあり
ますが、ぼくの記憶では、当日、
H.Kのラジオを聞かせてくれてい
局二〇日間、逮捕されてから二十

どんな行動が学生の本分に反する
ものだったか、説明してくれませ
んか」

輔導部長は、そのときこう言つ
た。

「君については、氣の毒だつた
と思つています」

「そんなことはどうでもいい、
何をしたか、何が学生の本分
に反することか、説明してく
ださい」

「君については、気の毒だつた
ので、左記の通り懲戒されまし
たのでお知らせいたします。

同じことを繰り返して、田代部
長は外へ出て行こうとした。

「逃げるのか、卑怯だぞ」
私は大きな声を出していた。学
生部の職員が、隣の部屋からのぞ
いていた。

角南課長が私を制止しようとし
た。彼も

「小畠君には気の毒なことをし
たと思ってるんだよ」

私の場合、権力によつて保証さ
れたアリバイがあつたのだが、そ
れから、いろいろ調べてみると、
青木委員長をはじめ処分された学
生で、その場にいたものはほとん
どいないのであつた。工学部の教
室で実験をしていたのに、処分さ

燎原

れたというようなものもあった。事実も何も確認しないままに、正副委員長と、総務部の執行委員全員を対象にした処分であり、同学会の解散であった。

学生を正門付近に集めたのは同学会ではない。「できるだけお迎えするように」と掲示で学生に呼びかけたのは、大学当局であった。「天皇を一度この目で見てみよう」という好奇心から集まつた学生も少なくなかつた。だから、見やすいところということで正門付近の松の木に学生が昇り、その重みで木が折れるということも起つた。

「平和を守れ」を歌うことなど同学会は決めていない。決まつていたのは、大学と警察との三者間で、「警備の警官が私服で学内に入ることは認める。制服警官は入れない」ということだけであった。

吉田分校の正門前に「神様だつたあなたの手で我々の先輩は戦場に殺されました。もう絶対に神様になるのはやめて下さい。『わだつみの声』を叫ばせないで下さい。京都大学学生一同」と記した「願」が立てられた。現場の写真を見るところによると、プラカードが二本あつた。一本には「天皇陛下万歳と残した声

が忘らりよか」と戦時に流行した「露營の歌」の一節が書かれていた。そしてもう一本にはなんと「小畠君の即時釈放を」と書かれていた。それだけであつた。

民放のラジオカーから流れてきた「君が代」に反撥するように「平和を守れ」が歌われ、制服の警察隊が構内に入つて来て、一時騒然としたものの、それほどの大きな混乱もなかつた、というのが現場にいた人々の印象であつた。

「京大の学生が天皇に不敬を働いた」として「事件」は大きく報道された。北海道では、警察のトップが「京大の学生は、天皇の車の上に乗り、赤旗を振り、インターナシヨナルを歌つた」と語つた、と報ぜられた。大阪では、京大の学生といふだけで町の人々に殴られた。正月を前に帰省する学生たちは、増し刷りされた「公開質問状」やパンフレットを手にしていた。そうすると「京大生西下す」と新聞の記事になつた。

同時に、激励の手紙もつぎつぎ寄せられた。国内からだけでなく、中国、イギリスからも来た。同じぐらいの数の脅迫状も来た。これらはほとんど匿名で、「それでも

お前達は日本人か。お前達はソ連に帰れ」という内容が多かつた。

私たち、当時、表舞台にいたもの知らないところで、なにかが

責任ある位置にあつた人物が「あれは仕組まれた事件だった」と私は仕組まれた事件だつた」と私は語つてくれた。五十一年の「官報」を調べたら、年の初めに発表された天皇の巡幸地での訪問先に

京大は入つていなかつた、という証言もある。一方、そのころ大阪で学生運動をやつていた人物が、「あのときは、京大に行けと言わ

れれば、戦後の一時期、あちこちで起こつた「謀略」の一種であつたかも知れない。

原爆展と同様、これも改めて「掘り起こし」が求められている。

(おばた てつお・八幡市在住)

良心の灯をいつまでも(二)

服部 真吾

(九) 新春のつどいと物品販売

一九七四年一月二〇日、「三木谷さんを励ます新年の集い」を開催しました。家族連れの参加者が多く、寸劇やスライドを観ながら連帯感を身につけて行つたと思ひます。この時の経験が後々争議が大きな山場を迎えたとき、家族会の結成につながつていつたのでし

て、自分も行った」という話もあつた。私たちは、當時、表舞台にいたものの知らないところで、なにかが起こつた「謀略」の一種であつたかも知れない。

原爆展と同様、これも改めて「掘り起こし」が求められている。

(おばた てつお・八幡市在住)

闘いの中で、争議団と支援する

会の会員や団体との交流が深まつ

ビラ配り

おはようございます

おはようございます

あさ八時、本店前のジラ記の

毎週金曜日休みなし

雨天は梅田の地下道

主として関西電力のOBたち

姫路から、神戸から、

大阪から

東都日記

二月は手がかりかんだが

九月五日はもつと

熱いだろう

支那風土人情

最高裁判所の判決を以て

もう一年が経つ

会社はやつていないと

言い張る

裁判所は具体的な証拠を

その判断の根拠に置いて

判決した
　　この最高の裁判所が、

である

(7) 2001年5月15日

燎原

が結成され大きな力を發揮していました。関西電力への要請行動、ターミナルでの早朝宣伝に人らはもちろんのこと、宣伝カーまで出して支援していただきました。東北や沖縄への全国オルグにも共に行動していただきました。国民救援会には欠かさず裁判を傍聴していただき、その内容を救援新聞の京都版に掲載していただき、月三回発行されていました。月三回発行されてるので「速報」の役割を果たしてきましたとおもいます。

日本共産党にも国會議員を先頭に支援していただき、京都の運動かなでも京都の全自治体・議会要請行動のとき、地元の共産党議員に全面的に協力していただきました。お蔭で全ての自治体・議会要請行動を成功させることができました。

(はつとり しんご)
元闘争別賃金裁判原告

の方には三、五〇〇円（送料ふくむ）でおわけします。振替送金でお申しこみ下さい。
郵便振替
○一〇六〇一七一五七六二一
燎原社

◆会員からの通信◆

（振替用紙をご活用ください）

燎原一一五〇号 りっぱなものをつけられてほんとうにごくろうさまでした。四〇年ほど大阪で活動していましたが、京都の運動からも学び、また自分もかかわっていきたいと思います。

(小畠哲雄・八幡市)

いつも有難うございます。合冊を見て、いろいろ勉強になります。頑張つて下さい。

(寺前いわお・京都市西京区)

編集委員としての主なものが校正です。第二の読者としての光榮ある仕事です。かれこれ二十数年前、初めて『山宣研究』編集をやりましたが、その時は校正ミスが多くて、和田洋一さんから「こんなのは読めない」と酷評されションボリしていたら、田村敬男さんから手ほどきを受けました。

その後のことです。山本宣治全集編集時に監修をお願いした住谷悦治さんから苦情葉書を頂きました。これは出版社が作った宣伝用チラシで、先生のお名前の誤植のお叱りでした。（私はタッチしていませんでしたが）。たいそうのご立腹で、葉書の宛名の私の姓を小田切とあって、まさに切られました。まあ、私は軽率な

いつもお世話になります。一度、稿したいと思つてはいるので、その時にはよろしく。
教科書問題や、女性国際戦犯法廷の京都での報告集会のことなど投
(足立恭子・宇治市)

「花やしき」山宣資料室通信(一)

小田切 明徳

ところがあり、度々の誤りに対するお叱りだと甘んじて、受けました。お名前、地名、年号には気を使うようになりますが、校正ミスの時はご指摘下さい。これは前置きです。

校正段階での余白の「うめくさ」つくりの役もあります。そこで、とりあえず、このコラムを作らさせて頂きました。

さて、山宣資料室ですが、貴重な資料が蔵の倉庫に納められていますが、非公開扱いとなっていますが、フロントで申し込めば、見学できます。これらの多くは、山宣の伝記を著された佐々木敏一さんが責任者になつて行つた同志社大学人文研の編集によつて整理されました。ところが、二度にわたる引つ

◆合本販売状況◆

皆さまの御指示と御努力により、「燎原」合本はすでに一七〇冊以上を販売することができました。まだ残本がありますので、御希望

感銘しております。一度小文をお送りしたいと念願しております。その節はよろしく。

(儀我社一郎・川崎市麻生区)

京都の民主運動史を語る会

総会のお知らせ

日時・六月九日(土) 午後一時三〇分より

場所・ハートピア京都 烏丸丸太町下ル

講演・碓井敏正(京都橘女子大学教授)

最近の教育改革と「国民の道徳」

「公民」教科書問題

議事・活動報告・会計報告・次年度の方針等

ふるつて御参加下さい

越しで、バラケタままで。その後に追加された資料は未登録のままで。そこで、この一年間で、整理しようと言うのが私の目標です。

毎火曜日の午後 2時~4時

この四月から「花やしき資料室」で、仕事を始めています。もし、資料を直接ご覧になりたい方は、この時間帯にお越し下さい。(出張、夏休み、正月、春休みはお休みですが、他はいる予定です。事前にご連絡頂ければご案内いたします)。四月は年表の張り直し、案内掲示の再作成を始めました。



編集後記

真夏のように暑い日があるか

と思えば、一度はしまいこんだ

セーターを重ね着しなければな

らない日もあるほど、今年の春

は無軌道でした。しかし花は咲き、やがて散り、気候は確実に

一定の方向に前進しています。

森内閣はどうとうあと一〇日

で退陣ときまり、自民党総裁選がはじまり、四人の候補がそれ

ぞれに他候補を非難中傷してい

ます。いよいよ「おわりのはじ

が学園紛争で「このままでは危ない」とこれらの資料は「花やしき」

想もありましたが、英治さんの死に去でこの案は立ち消え、この後、

蟾川さんのポケットマネー三〇万円を頭金にした募金運動の話しも

立ち消えになりました。これは、

小説『山宣』を書いた西口克巳さん

が預かっていましたが、展示館

構想や募金運動が不十分であったことで中止しました。そのお金は

どうしたのかですが、西口さんの

配慮で、山宣劇『嵐の中の赤いバラ』(土井大助脚本)の際、劇団

に寄付されました。それを前後して、整理を担当してくれた同志社

まり」の様相となりました。

あたらしい歴史教科書をつく

る会編の中学校「歴史」「公民」

教科書が検定に合格し、中国・

韓国・シンガポールその他の東

アジア諸国から猛烈な非難がお

こり、韓国大使は一時帰国しま

した。総会では碓井氏をわざら

わしてそれら教科書の危険なね

らいを明らかにして頂く予定で

ます。御期待下さい。

会の庶務を担当して頂いた奥

村さんが退かれ、井手さんにか

わりました。奥村さんの長い御

苦労に感謝申し上げます。編集

にはあらたに小田切明徳さんが

加わることになりました。新し

い意気込みで活動したいと思

います。

TEL
FAX

〒六〇六一八一〇七

京都市左京区高野東開町
一一二三 第三住宅

三三一三〇一 井手 幸喜
〇七五一七二二一三八二三